

神楽入文

上

911.62

Ta 943k

088148-001-6

911.62-Ta 943k

神楽催馬楽歌入文

橘 守部/著

[刊年不明]

DBH-0005



よき羽り也。ちまひも。一。奉事のまゝに記せ。後世に
り。ふくむ。御書の御事。一。御書。一。御書。一。御書。
言ふは。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
まのまゝに。御書の御事。一。御書。一。御書。一。御書。
一。御書の御事。一。御書。一。御書。一。御書。一。御書。
治本の中へ。あつた。御書の御事。一。御書。一。御書。一。御書。
いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

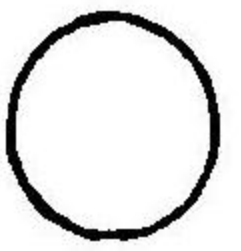
112410

は。御書の御事。一。御書。一。御書。一。御書。一。御書。
三奉の。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ま。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
الحمد لله الذي هدانا لهذا
هذا كنا كنا الضالين
الضالين

وَالْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي هَدانا
لِلْإِسْلَامِ هَذَا كُنَّا مِنَ
الْغَالِبِينَ
بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
الحمد لله الذي هدانا لهذا
هذا كنا كنا الضالين
الضالين

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
الحمد لله الذي هدانا لهذا
هذا كنا كنا الضالين
الضالين



بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
الحمد لله الذي هدانا لهذا
هذا كنا كنا الضالين
الضالين

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical passage, written in a cursive style. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines within a rectangular frame.

Handwritten text in Arabic script, continuing the passage from the previous page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines within a rectangular frame.

大江戸漢草 井田千英

神樂歌入陵卷上

神樂譜目錄

協定部撰述

庭燎 阿知女作法

採物

賢木 或說 幣杖 或說 藤 或說 弓

栢 斤折 諸舉 律神 或說

大前張

官人 本綿志天 難波河 前張 踏香取

小前張

蓍枕 閑野 磯壽 藤波 殖柳 總角 大宮

湊田 葦 或說 子系 早乳

此記述の天香山云々故村と云々... 延保... 天香山云々故村と云々... 延保... 天香山云々故村と云々...

古事記上曰故村是天照大神見畏田天石屋戸... 延保... 古事記上曰故村是天照大神見畏田天石屋戸...

此の... 延保... 此の... 延保... 此の... 延保... 此の... 延保... 此の... 延保... 此の... 延保... 此の... 延保... 此の... 延保...

細注 ○一條院上同 ○堀河院上同 ○鳥羽院上同 ○高倉院上同

親王已下貞保親王上同左大臣雅信上同博雅上同三位上同地下

尾張演主石木云枝古部吉男同近久同延近雅樂家

大神惟季同基政同元賢同宗賢同景賢景式賢

行高

基—景貞—景光—景朝—景茂—景繼—景永—云云

景政

行則—則近—則房—近真—光繼—云云

行光—光久—有時—有光—有久—云云

これハ決まらば限らば、位馬もふもあつたる系傳なりとれど、
とてふと出つたは既て、これ引也。又源家藤家の二家

教書

始祖も記せし。それハ備馬家の方に引べし。互ふ又合
せて、右の野曲相承ふ。彼親王と云るは、武部卿敦
實親王と指さるり。宇多天皇弟ハ皇子にて、音曲とね
まをせり。物ふ多く又とて。

文字者ハ
シラクセ

細部氏の神樂歌考云、神樂の二字、かゝるいふと習ふべし。是
とて、つとてハ、かんくく、とて、文字音より、つとて、とて、
くは音に、つとてハ、太平楽、五常楽等の歌也。を、つとて、
し、つとて、つとて、つとて、つとて、つとて、つとて、
中、つとて、つとて、つとて、つとて、つとて、つとて、
臣白、忍我、天皇、猶、曾、變、勢、其、大、御、琴、と、あ、つ、と、引、し、
た、つ、と、引、し、彼、ハ、つ、と、引、し、
十一

もく火のつらさにて... 字面をとりて... 前・舉・庭・燎・巧・作・仇・優・劣... 所御神樂事... 地下居人等... 次第第四先人長庭火乃前仁出来云... 笛亦不石笛亦不度今夜乃教乃清神態乃人乃長左左乃... 近伊衛利府庭乃將監已止人正伊乃乃位乃下乃之奈乃某姓名... 一云尾張懸太刀男山乃惣捨技... 二則主殿寮佐唯祿須仰云御火白久... 度

えさやあそも... 推して... 集る妖鬼と通て... 人ひさふ... 本末一首

或は... 十三

ほふくうんはゆ也々世々世々世々世々のゆく庭火は曲ま〜
を文流節付本に四此奇秘曲也云云合管撥第二番出
毎句如此本末共用同常儀也云云一々に一々に付し
母の下まの人の心しむの神事とて知られは庭火に曲
あつても録しり○みひきは心折ふ事よむと云々
て美山とてそねハミシの心折ふ事よむと云々
しねハミの心折ふ事よむと云々
と云々○此山に考き入四
か心ハ奥山に折れて云々ハ門心のもも也は母の俗外とせて
外の心折ふ事よむと云々○此山に考き入四
昔ハ本の心折ふ事よむと云々

あつて考曰真折ハ心折ふ事よむと云々○此山に考き入四
葉は紅ぼる心折ふ事よむと云々
げやき子ちし今按ふ曾架う草木攷曰繼體紀妹あ万
ろしめ左葉還囉とて心折ふ事よむと云々
藤也俗に心折ふ事よむと云々
せ云心を心折ふ事よむと云々
ちり心折ふ事よむと云々
其蔓と云心折ふ事よむと云々
たれハ其を懸つち心折ふ事よむと云々
い〜心折ふ事よむと云々
い〜心折ふ事よむと云々

此の意は、もとのつねに、唯、て、し、あ、ら、し、ま、り、の、ま、た、ま、を、ハ、
ふ、の、ま、が、さ、ら、の、ま、の、ま、と、さ、ら、の、ま、と、さ、ら、の、ま、と、さ、ら、の、ま、と、
と、ま、り、の、ま、と、さ、ら、の、ま、と、さ、ら、の、ま、と、さ、ら、の、ま、と、

㊀

阿知女作法

阿知女 於々々々
於介 阿知女 於々々々

○阿知女 妙さうざりさあざりと云ふや、阿と宇と、五音相通
せに、考況同じ。○阿知 妙さ 細如命の、岩戸は、前ふたへ、
乃、疑しと、さうざりさあざりと云ふや、阿知女の作法と、
うも、今、これ、阿知女と、まて、人、長、の、な、ら、ぬ、や、阿知女の作法と、
入云、宣長云、あざり、阿知女と、和、阿知女、童、徳、福、ま、り、同、く、て、阿、

され、神のま、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
この、阿知女、た、阿知女、を、奉、招、る、阿知女、を、奉、招、る、阿知女、を、奉、招、る、
や、う、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、
く、思、い、阿知女、又、阿知女の、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、
東、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、
阿知女、に、今、阿知女、和、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、
阿知女、に、所、行、や、ま、り、阿知女、に、阿知女、に、阿知女、に、阿知女、に、
是、を、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、
乃、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、
阿知女、乎、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、
引、て、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、阿知女、と、ま、り、

て應答ふまに以圖書入云久老云笑ふ色をけりけり其の竟にひく
ふしや曲の發端よとてこれれハ警蹕の色をけりけり。宣長云
古本此云天庭火処ふに發察佐唯稱須とある是也已上極小大方
まればこれに依て警蹕の色とけりけり思ふとてさてもハひり
くたを多うり先文法本此処ふ令檢管檢兩三段之後打止拍子
并段拍子本方於ここ本方号三拍子為和琴拍子不違打之末方
於介於ここ末方節如始但拍子四打之まゝ小前張阿知女作
法於ここ下云有大前張之時件所作所作人唱之末方不唱
之小前張作法如以前但薦枕和琴合之也まゝ嘉禎本ふも是
と庭火の下ふ記して云曲竟有阿知女所行曲終而本方唱
之末方又唱之拍子打止皆共笑やけりけりハ上ふ引古事記

に宇受賣命カミカリの成哉とて高天原タカヒラ動而八百葉ヤフヤフ并共笑ニヒキとあ
るをうりて作法よして於ここハ即ち笑ふ色とてされりて
但本まにこれを唱ふる間之警蹕和琴終之拍子けりけり
いふ諸人不笑唱人終て共ふ笑ふとてされり。警蹕の色
若稽和琴等々を合ひてともめりけり。考へべきなり。とて又
此作法と神楽の發端よとて終ふはこれとてハさても
そとてちやまら也。天法をうりて終ふはこれとてハさても
かふる同一拍子たるとて照きて拍子のかわりてハさても
嘉禎和琴一曲毎に曲の終ふとてされり。此等ハ中に終ふはし
しとてハされり。又今の中とてハされり。終ふはこれとてハさても
らとてハされり。又今の中とてハされり。終ふはこれとてハさても

楸

嘉祿のふ。葛考より。嘉祿とある。なつとせなり。せよりの物。此案に。きく。と。之。
 皆。名。名。戸。段。は。品。く。より。事。取。れ。く。も。わ。ゆ。り。書。紀。の。文。よ。合。て。わ。ぶ。し。
 考。日。さ。つ。ふ。ハ。葉。樹。ふ。て。方。く。ハ。昔。昔。の。の。け。り。さ。た。る。あ。さ。り。な。り。中。ふ。
 も。楸。も。り。け。り。く。せ。し。に。傳。ふ。但。ま。じ。う。な。葉。解。ふ。葉。た。る。樹。と。く。く。と。さ。さ。
 所。從。よ。ハ。云。伝。楸。葉。葉。云。さ。く。に。か。く。事。と。さ。さ。り。な。り。思。ふ。に。り。し。ん。
 神。ろ。う。ら。事。に。り。し。ハ。楸。さ。う。さ。し。云。云。考。外。文。神。宮。に。十。二。月。晦。の。夜。ふ。
 四。人。花。堅。系。ら。あ。る。多。と。申。て。馬。車。法。門。あ。ら。わ。れ。と。な。れ。ハ。楸。さ。さ。り。あ。り。
 くれ。と。さ。秦。文。樹。づ。と。丹。後。國。よ。り。さ。す。神。宮。裏。の。ハ。後。て。楸。さ。り。其。と。さ。さ。り。さ。ら。
 と。さ。り。し。と。さ。り。人。何。も。國。箱。根。と。い。ふ。楸。さ。り。と。り。と。い。ふ。云。伝。若。老。又。
 子。は。昔。人。の。著。し。せ。し。物。ふ。と。は。さ。り。ハ。ハ。香。ま。き。さ。り。さ。り。と。用。い。し。故。

サカキ
 楸
 カ

ふ。小。香。木。と。さ。さ。り。と。街。ハ。楠。木。犀。楸。桂。廣。心。樹。檀。杉。等。な。り。し。
 き。り。と。さ。さ。り。と。楸。ふ。は。等。た。り。と。香。木。な。れ。ハ。の。こ。も。ハ。楸。さ。り。さ。り。さ。れ。
 ぐ。さ。り。國。の。り。ふ。し。に。香。木。と。さ。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。
 ち。り。上。は。代。の。人。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。
 さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。
 や。え。し。る。字。後。ふ。杜。毛。利。又。佐。加。木。と。さ。り。と。い。ふ。物。の。御。請。ま。し。瑞。龍。寺。に。
 今。せ。し。る。ち。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。
 さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。
 ち。り。書。に。出。で。る。香。木。と。さ。り。と。い。ふ。物。の。書。に。因。り。て。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。物。ふ。と。さ。り。と。い。ふ。
 く。ひ。古。書。と。り。し。て。さ。り。と。い。ふ。物。の。中。古。及。の。受。本。の。書。に。

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、

沼、ノボ也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。

抄云、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。

抄云、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。
 是、ト也。今為上德下德二國、ト抑ト也。

昔多持多し。く扱ふ。上二白に。問と。かろて。下三白に。こきん
 下の杖多し。く扱ふ。天ふぢん。や。その。姉の杖。た。つと。自向自答の
 杖。た。り。ん。ち。き。る。け。早。杖。た。り。ん。栄。人。と。と。そ。り。と。て。は
 一。句。の。短。じ。は。お。ぶ。た。て。一。言。の。ま。し。の。り。ん。
 末
 ち。は。も。つ。ら。く。と。と。く。れ。バ。ま。の。の。ち。せ。り。の。ま。し。の。り。ん。
 くれ。つ。を。り。

抄云。は。多。持。多。ま。し。と。れ。と。○。あ。ま。つ。の。考。書。入。口。神。名。式。ふ。
 大和國葛上郡。大坂山に神社とありて。は。時。祭。式。ふ。と。も。れ。バ。此。ハ
 村保を。阿布と。い。ひ。誤。り。と。し。今。按。ふ。法。を。考。め。ず。あ。り。て。
 天治奉ふハ。安不佐加速と。れ。バ。近江の逢坂と。い。ふ。一。考。地
 と。や。も。収。と。り。ぬ。や。り。ら。る。今。京。の。入。口。と。り。ぬ。れ。バ。ま。て。杖

ありと。し。と。い。は。し。か。め。大。坂。社。也。祈。年。祭。に。各。預。り。て。人。と。と。も。
 一。神。樂。歌。ハ。む。む。と。内。侍。所。の。法。住。持。に。と。り。て。ち。が。の。ま。れ。弘
 一。し。と。り。ぬ。れ。バ。ま。の。の。ち。せ。り。の。ま。し。の。り。ん。○。ま。の。人。は。考。田。山。人。と。
 他人のま也。と。い。ふ。ゆ。え。に。割。り。ぬ。れ。と。い。ふ。ま。の。人。と。い。ふ。の。れ。
 ち。は。も。つ。ら。く。と。と。く。れ。バ。ま。の。の。ち。せ。り。の。ま。し。の。り。ん。
 扱ふ。と。い。ふ。ま。の。ま。の。の。ち。せ。り。の。ま。し。の。り。ん。他人に
 一。ん。た。と。也。同。一。杖。も。他人の。り。ん。は。と。り。て。杖。ハ。ま。の。り。ん。他人
 一。由。ら。る。ま。の。れ。づ。○。と。り。て。せ。り。の。ま。し。の。り。ん。杖。を。り。今。按。ふ。
 一。と。り。ぬ。れ。バ。ま。の。の。ち。せ。り。の。ま。し。の。り。ん。俗。の。り。ん。な。れ。ど。
 天治奉ふも。王。礼。仁。久。礼。多。前。也。河。川。惠。曾。古。礼。や。あり。今。用。る。ゆ。に
 一。も。二。白。の。り。ん。と。或。え。と。て。細。書。に。か。き。り。抄。の。板。本。に。ま。れ。と。

此國乙訓、新編岡平、度毛、松丹、よん、と、い、ま、い、入、母、の、け、さ、た、ら、ふ、が、さ、ら、
し、ま、い、り、り、行、囊、抄、陸、西、部、云、長岡、小塩、新岡、と、い、ら、ざ、り、又、其、下、の、
山崎、路、修、ふ、と、出、し、て、云、阿弥、陀、峰、伊、豆、村、新岡、自、路、右、ニ、ア、リ、今、
里、俗、ハ、トモカト、稱、ス、此、邊、ヨリ、右、長法、寺、村、粟生、光明、寺、長岡、ノ、舊、
都、ハ、小塩、山、大原、山、ニ、ツ、キ、タ、リ、乙、訓、新、大原、ノ、内、ナ、リ、と、い、り、
一、方、の、ま、ハ、は、母、を、り、づ、の、母、を、則、は、新、集、に、つ、い、ま、つ、る、舎、人、昔、
の、ま、に、勝、に、下、さ、る、新、の、ま、ハ、是、る、新、國、の、母、也、と、い、ふ、中、國、ハ、二、白、
の、年、と、い、ら、し、入、ら、る、金、の、年、に、い、ら、る、新、の、ま、ハ、
新、の、ま、ハ、
美、也、乃、美、佐、と、言、フ、美、也、ヤ、サ、ミ、サ、ミ、サ、ミ、サ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、与、遠、加、比、女、乃、
新、の、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、

新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、

新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、
新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、
新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、
新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、
新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、
新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、
新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、
新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、
新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、
新、の、ま、ハ、今、の、ま、と、い、ら、る、ア、サ、ミ、ニ、ミ、美、佐、仁、百、済、止、と、い、ら、る、

神歌や催馬樂の なぞもまた解かる

先に「翁」の前文句を解いた 河口慧海師が功績

日本の舞臺において古來からなぞのやうに見られてゐた神歌の前文句「トウトウタラリタラリ」タラリアガリタラリトウ……」の不思議な音は西蔵語であると既に昨年四月本紙所載「神歌のセンセーション」をひき出した西蔵語の世界で河口慧海師は、更に

に我國最古の古歌であり樂舞である神歌および催馬樂の中にある不可解な文字に就き研究の歩をすゝめつゝあつたが、神歌の新しい解と催馬樂のなぞとをこれ従来は口拍子とされてゐた舞の新しい解について敢て草々前人未

- 一 サル(シ)ロー
ミツク(ミ)シ
 - 二 サイ バル(ヲ)
シク(シ) ヨク(ク)
 - 三 カグル(ヲ)
ヨク(ク)
 - 四 サニバ ソー
ヨク(ク) ヨク(ク)
 - 五 オケ ヨク(ク)
 - 六 オシ トント(ト)
ヨク(ク) ヨク(ク)
 - 七 トシ ヨク(ク)
- 新樂
地方の戀歌
祭典執行の歌
瑞詳作成
鳴呼何ん善ま
接吻の露の類成就
喜の露の類成就



河口慧海師

たきの音のいはれてゐた舞は意外にも西蔵語であるとわかったのである。その主なる音は別々に示す如くである。元來神歌は平安朝から鎌倉時代にかけて行はれた樂物であるが、このうち西蔵語が保持されてゐるのはこの歌樂の事と推してゐる。催馬樂は前記の様に奈良朝時代林邑を経て渡來したものであるが師の研究によるとサイ、ムラなどは立派な西蔵語で「地方の樂歌」といふ歌歌情緒豊かな意味だといふ事がかたしめられた。従來この催馬樂の

この歌樂の事を新樂と稱してゐる。催馬樂は前記の様に奈良朝時代林邑を経て渡來したものであるが師の研究によるとサイ、ムラなどは立派な西蔵語で「地方の樂歌」といふ歌歌情緒豊かな意味だといふ事がかたしめられた。従來この催馬樂の

語源に ついては國學者の間にも幾多の異説があつた。日本歌謡で「催馬樂は馬子歌の意に曲名に似してこゝんなを付したに過ぎない」といつてゐるが、河口師の語の如く地方の樂歌と呼ぶべき西蔵樂のその根拠であるといふ事は、師の著書に於いて見られる。

催馬樂は催馬樂の「翁」や神樂の歌などよりも古いものである。この中には古來樂の別名もあつたものが多く、一種の口拍子だといふといはれてゐたが師の研究で

は西蔵語で歌なる口拍子ではなく、意味をもつ言派であるが判つた。例へば「しかしては國ぞさかへんぞ、わいへらぞとみせんぞ、おしとんと、おしとんと、おしとんと」といふ歌の中間に「おしとんと」といふ句をつけた部分は口拍子とされてゐたのにこれは一片の散文語である。

「さうすればわが家などよがむであらうからさ。接ふんの舞で願成就、よろこびの舞で願成就」

の意は「うぐひすのぬさといふ音は、おけをぬの花かさや」とは「うぐひすのぬさといふ音は、おけをぬの花かさや」といふことである。

意味は「祭典執行の歌」といふことであるといふ。従來の國學者の考へによると「かへら」は「かへら」といふ文字の音から出たもので、おけをぬの花かさやといふことであるが、催馬樂の舞に「かへら」といふ音は、西蔵語の「かへら」といふ音であるといふことである。

